



施設

町民の利便性を考えた役場庁舎の増築を求む

「私の視点」

町庁舎は、築40年が経過している。建設当時と比べると人口は1.75倍に増加している。事務量も増大している。町民の利便性向上のための増築を求める。

答弁（町長） 役場庁舎の増築を検討する

問 役場庁舎の増築予定はどのようになっているか。

答（町長）マイナンバーカードの事務手続や「こどもまんなかセンターにじいろ」の創設などにより、来庁者の待合スペースや事務スペースの狭あい化、会議室や相談スペースの不足などが問題となっている。来庁者の利便性や快適性を高め、職員の働きやすい環境が構築できるような増築ができないか検討していく。

問 少子高齢化により公共施設の用途などの見直しが必要になると思う。町民の利便性のよい公共施設の再編計画が必要となると思うがどうか。

答（町長）「玉村町公共施設個別施設計画（建築物）」については、施設等の老朽化状況など、策定時の状況と大きく変化していることから、令和7年度に改訂を予定しており、各施設の現状を把握し、改めて長寿命化計画を策定していく。

また、この個別施設計画で対象としていない学校、教育系施設、町営住宅、クリーンセンター等があるが、個別に計画を策定し、その計画に基づき、維持管理を進めているところである。各計画とも施設等の老朽化の状況、町民のニーズを的確に把握し、再編等も視野に入れ、利便性の高い公共サービスが提供できる個別施設計画の策定に努める。

子育て中の保護者の道しるべに

問 令和6年4月に開設された「こどもまんなかセンターにじいろ」の相談内容は、どのような

ものが多いか。

答（町長）「子育て」に関する相談が一番多い。次に「子どもの発達」、「不登校」に関する内容となっている。

問 子育てに悩んでいる保護者に向けて講座などを考えているか。

答（子ども育成課長）現在、職員がいろいろと検討しており、西児童館ではペアレントトレーニングという講座を実施する予定である。心理士から子どもとの向き合い方、子育ての楽しさなどを学ぶことができる。



役場内部の待合場所が狭い。また町民スペースも狭く煩雑になり庁舎案内所も分かりづらい

こんな質問もしています

・令和7年度保育所待機児童について



施設

道の駅玉村宿の南側公園構想は見直しを

「私の視点」

高崎市のランドマークが令和9年にオープンする。道の駅への影響はどうか。ランドマーク内のマルシェへの玉村町農業者出店を、町では最大限見出してほしい。

答弁（町長） 高崎市の施設動向を見て再検討を行う

問 高崎市の関越自動車道西側に建設されるパーク型商業施設「BETTER DAYS」は、国内最大級の屋内外一体型遊戯施設をはじめ、マルシェ、天然温浴施設、飲食店と事業費約98億円をかける巨大なプロジェクトである。高崎市は初期投資に約20億円を投入、運営管理には年約3億円を支援し、令和9年のオープンを目指している。関越を挟んでいる町の道の駅にも大きな影響がある。今後、町で計画している道の駅南側の公園構想は広場、遊具、飲食棟、物販施設であるが、ここへの投資は、計画見直しの必要があるのではないか。

答（町長）高崎市の大規模集客施設の動向を注視しながら、参画を希望する事業者とも情報交換を行い、再検討を行っている。

問 一方で、町の農業者への支援として、高崎市側のマルシェ・直売所への玉村町コーナー

の出店を提案するなどの支援策を考えてはどうか。

答（町長）農業者が自ら農産物の販路拡大を行うことは、経営の安定、所得の向上に資する大変有益な行動である。玉村町と高崎市、双方での利益につながるような施策を検討していきたい。

災害時応援協定

問 災害時応援協定として町では、自治体、事業所、福祉事業所、情報発信事業者と協定を結んでいる。昨年12月には日本ドローン協会群馬事業所と、無人航空機による災害対策活動に関する協定を締結した。上空から被災状況や要救助者の有無などを確認する、あるいは必要な物資を運搬するという。

そこで、協定を結ぶ相手の選定基準と協定締結までの流れは。また、自治体間ではどんな支援をするのか。

答（町長）町では、これまでに32件の協定を締結している。協定を結ぶ相手方と環境安全課消防防災係との間で協定内容の精査・確認を行い、締結に至っている。自治体間では昨年1月に発生した石川県能登地震において、石川県輪島市へ給水車による応援対応を行うため職員を派遣した。

こんな質問もしています

・令和7年度施政方針について



道の駅南側に予定されている公園は、高崎市の大型商業施設の建設後に再検討を

次のページは



堀越議員



羽鳥議員

一般質問